

医療被害者の声を現場に生かす「医療安全への取組」

医療法人社団明芳会新葛飾病院セーフティマネージャー

豊田郁子

「医療安全に関するワークショップ（特定機能病院）
医療安全研究発表会」
『医療被害者の声を現場に生かす医療安全への取組』



新葛飾病院
医療安全対策室
豊田 郁子

平成17年11月22日

理貴くんの亡くなる前日 最後の笑顔



発病・受診

2003年3月9日の明け方、息子理貴が強い腹痛を訴えたため、小児救急外来を受診した

いったんは痛みが軽くなったように見えて帰宅自宅で寝かせようとしても、腹部の張りがひどく苦しそう ⇒ 再度受診
再診時の救急外来の看護師は理貴の腹部を診るなり、すぐに処置室に寝かし、すばやい対応

病院での処置

外来で腹部のレントゲンとCTを撮ったあと、浣腸と採血、点滴をし、観察室で血液検査の結果を待ち続けた

医師が現われたのは2時間後

医師「血液検査の結果は特に異常ありませんが、このままではお母さんも心配でしょうかから入院しますか？」
私「そうしてください。」

理貴の病状説明はこれだけでした

入院

そのまま入院 病室に11時に移動
病棟スタッフに危機感が感じられず

急死

入院から2時間半後
病室に医師が一度も来ないまま、
理責は黒茶色のものを多量に嘔吐し、
心肺停止

16時03分死亡、ショック死
わずか5歳のいのちでした



マスコミ報道

新聞社数社に内部告発



カルテ開示



病院の不誠実な対応
に傷つき取材を決心

息子に起きた医療過誤の背景と問題点 コミュニケーション不足が招いた死

●チーム医療

- ・当直医の誤診と怠慢⇒引き継いだ看護師まで経過観察が緩慢；誰も病状の悪化に気付けなかった
- ・申し送り、経過観察においてチーム医療がなされていなかった

●医師のモラル（道徳・倫理）

- ・医師に思いやりの態度と倫理観は必要不可欠
- ・担当医は、怠慢としかいいようのない患者への対応だった
- ・他科の医師やスタッフとの協力的医療、そして自らの判断能力においても欠けていた

医療被害者としての活動

再発防止を願い、2003年12月より医療被害者家族として医療機関・医学部・看護学校などで医療事故に関する講演活動を開始。地域でシンポジウムも開催。

医療従事者としての活動

活動のなかで、新葛飾病院院長と出会い、2004年10月より新葛飾病院医療安全対策室に勤務。
『医療被害者の声を現場に生かす医療安全への取組』

新葛飾病院・新葛飾ロイヤルクリニック 診療科と病棟および病床数

● 診療科目

- 内科・循環器内科・消化器科
- 心臓血管外科
- 外科
- 整形外科
- 耳鼻咽喉科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 眼科
- 麻酔科

● 病棟数 4病棟 176床

● 病床数

- 2階病棟(整形外科・耳鼻科・眼科)
集中治療室(ICU)
- 3階病棟(外科・消化器内科)
- 4階病棟(循環器科)
- 5階病棟(心臓血管外科)



医療被害者を招いて医療事故から学ぶ 医療安全院内研修会

平成16年度8月6日
新葛飾病院医療安全研修会
『医療被害から学ぶ』

他院の医療事故被害者家族が、
それぞれの事故について語り、
医療従事者にどうあってほしい
かをテーマに研修会を行った。



当院の被害者家族との係わりのなかで

2002年8月、70代の男性患者をインフォームド・コンセント(説明と同意)を欠いたまま死なせてしまった事例

- 院長は事態を知り、担当医とすぐに謝罪
- ご家族との約束
- 毎年、新たな取り組みをご報告
- 医療安全院内研修会の講師を依頼

医療被害者を招いて医療事故から学ぶ 医療安全院内研修会

H17年2月3日
医療安全院内研修セミナー
「インフォームド・コンセントについて」
癌の告知
(説明不足による認識の違い)

説明不足による当院の医療被害者ご家族が、当時の状況や心境を語り、弁護士からは説明義務違反について講演。インフォームド・コンセントの重要性について勉強会を行った。



その他の活動(小児医療)

『小児医療の問題を何とかしたい』
と模索し始めた
立場の異なる医療被害者家族との
出会い

⇒3つの家族は、医療者と患者の溝を埋める
ための活動を開始

4月26日、3家族で厚生労働大臣に、
小児救急の現場を変えるための請願書を提出
5月4日シンポジウム「小児医療を考える」開催



小児救急救急問題に関する請願書

平成17年4月26日

厚生労働大臣 尾辻秀久殿
医政局長 岩尾総一郎殿
指導課長 谷口 隆殿
雇用均等・児童家庭局長 伍藤忠春殿
母子保健課長 佐藤敏信殿

小児救急問題に関する請願書

私たちは、「瀕死」ともいわれる小児救急の現状の中で、小児科医の夫や、我が子を亡くした家族です。中原のり子、智子は、1999年の夏、激務によってうつ病を患い、44歳で自殺した中原利郎医師の妻と医学生の子。佐藤貴範、美佳は、2002年9月、岩手県一関市で夜間に小児科医がいる病院が見つからず、7か月の息子を亡くした両親。豊田郁子は、2003年3月、「小児救急の充実」をうたう東部地域病院の夜間診療で、誤診や引継ぎミスから5歳の息子を亡くした母親——です。それぞれが抱えている問題は、医師の過労、たらい回し、救急病院の質……と様々ですが、いずれも小児救急が置かれた現状を象徴しているものです。小児救急はもうギリギリの状況です。これ以上、患者側にも医療者側にも被害者をつくってはなりません。そのためには、国や自治体、日本小児科学会にリーダーシップをとってもらうことに加え、私たち市民も、現状を知り、よりよい小児救急が成立するよう意識を変えていかなければならないと考えております。私たち3家族は、このたび、小児救急や小児科医療の現状を変えていくために一緒に活動していくことを決め、厚生労働省に対し、以下の4点を請願いたします。

記

- 1 小児救急体制の整備を政策の中に明確に位置づけ、国民にもアピールしてください。
- 2 日本小児科学会の構想にもある拠点病院のセンター化を進めるため、診療報酬を含めた政策誘導をはかってください。
- 3 当直とは夜間の勤務であり、労働にあたることを明確にしてください。
- 4 小児救急の現状に関するデータを情報公開し、親たちが問題を自分のこととして把握する機会を増やしてください。

以上

救える命を救うために『小児医療現場の改善を！』
 シンポジウム「小児医療を考える」05.5.4
<http://www.bb.e-mansion.com/~kuki/>



からだ学習館(患者図書室)設置

からだ学習館相談窓口

相談窓口設置場所: からだ学習館内

医療相談員構成メンバー

看護師、社会福祉士

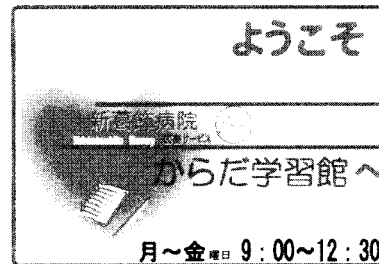
(病状や診断内容など)

予約相談 毎週月曜日午前9時～13時

セーフティマネージャー

(システムや苦情)

相談受付 月曜～金曜まで(祝日を除く)



患者相談窓口から得た貴重なご意見



患者参加の一つの形

医療機関に今、求めること

- コミュニケーション能力
- 患者と医療者をつなぐパイプ役

具体的な取り組みを活かすために

患者さんが医療参加しやすい
環境を作りましょう

☆ご清聴ありがとうございました☆